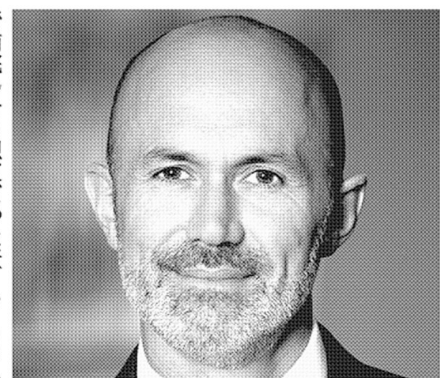


代替資産、規模拡大で妙味

インフレ下で高い利回りや分散効果を見込める投資先として、未公開株式やインフラなどオルタナティブ（代替）資産に対する機関投資家の関心が高まっている。資産運用世界最大の米ブラックロックのオルタナティブ部門グローバル責任者、エドウィン・コンウェイ氏は「インフラや不動産はインフレへのヘッジ機能を果たす」と指摘した。金融不安下で、銀行に代わりマネー供給の担い手になることも強調した。



米ブラックロック
シニア・マネージング・ディレクター

エドウィン・
コンウェイ氏

Edwin Conway 2011年ブラックロック入社。機関投資家営業のグローバル責任者を経て、19年から不動産やインフラ、ヘッジファンドなどのオルタナティブ資産を統括。グローバル経営委員会のメンバーも務める。ユニバーシティ・カレッジ・ダブリン卒

「2022年は株式と債券がともに値下がりし、投資家に多くの課題を突きつけた。ポートフォリオの中で代替資産を取り巻く環境はどうか。」「我々は23年1月にかけて世界の機関投資家200社強へ調査した。（金融市場全体で）相場が大きく揺れ動いていた時期にもかかわらず、代替資産には今後また将来への成長資金を必要とする魅力的な案件が豊富だ。」「だが、全ての代替資産が良かったわけではない。プライベートエクイティは、上場株と同じく金利上昇の逆風を受けた。」「代替資産の中でも有望だとみている分野は何か。」「インフラやプライベート（SVB）などの地銀は、中堅・中小企業への重要な資金提供者だ。経営圧迫による流動性の引き揚げは、（聞き手は篠崎健太）

米銀苦境下の投資 流動性の供給役に

たインフレ抑制法（IRA）は、温暖化ガス排出量の実質ゼロに向けたインフラ整備（約50兆円）規模を支援する。税額控除や補助金といったIRAの刺激策の結果、期待収益率が数パーセント高まった計画も出てくる。インフラ資産の妙味が色あせることは当面ないと考えている。」「投資家のポートフォリオに占める代替資産の比率は小さくない。中核的で重要な存在となっている場合も多く『オルタナティブ』という概念すら、本質的にはなくなってきた。大きな市場規模に育ったことで投資機会は膨らんでいる。」「米国で銀行の経営破綻が続いています。代替投資に影響はありますか。」「シリコンバレーバンク（SVB）などの地銀は、中堅・中小企業への重要な資金提供者だ。経営圧迫による流動性の引き揚げは、（聞き手は篠崎健太）